

川西市黒川

「日本一の里山」といわれる黒川に、  
自分らしく快適に生きられる場所を作る



能勢電鉄妙見口駅から徒歩で20～30分。川西市の北端に位置する黒川地区は、山頂に日蓮宗霊場があり、全国から参拝者を集める能勢妙見山の玄関口だ。山から切り出したクヌギを原料とする菊炭の炭焼きが、現在も続けられており、「日本一の里山」と呼ばれている。

自然に囲まれた里山の環境に惹かれ、黒川の空き家を改築してカレーが売りのカフェ「ヨナナ」をオープンした、堀部美香さんに黒川の魅力について伺った。

#### 豊かな自然環境を見て、即決で移住を決めました

「とにかく段々畑の眺望が素晴らしい。春には桜がみごとで一面桜吹雪が舞います。電車の駅から歩ける距離にこんなに豊かな自然環境があるなんて、と即決でした」

黒川は、いい意味で人里離れていて密集していないので気が楽。のびのびと暮らせるし、自分たちのライフスタイルには田舎があっていると思い、移住を決めたのだという。



### インドに行きたいからカレー屋をオープン！？

黒川に住み始めて3,4年経った頃、縁があって空き家だったこの建物を見つけ、堀部さんが使うことになった。せっかくだから店を開けないかと思い、自らの手で改築。一級建築士の資格を持つ堀部さんの知識と経験が生きた。1年後、薪ストーブを備え、木の温もりを感じる居心地のいいカフェをオープンすることができた。店の名前をヨナナ（477）としたのは、自分と関西を結びつけてくれたご縁を感じる国道477号線沿いにあるから。

カフェとしてスタートしたヨナナは、それからしばらくしてカレーをメインに提供する店になる。



「実は、またインドに行きたいというのが開業の動機なのですよ」  
堀部さんは笑いながら話してくれた。

以前、堀部さんが設計士として働いていたころ、仕事で1年間インドに滞在したことがある。人が優しく、ゆったりとした時間が流れる南インドが大好きになったが、日本での結婚・出産により、その後は行けずじまい。ヨナナをカレー屋にしたら、またインドに行けるということらしい。



黒川を知ってもらいたいと思うようになった

国道沿いにあるヨナナには、他の地域や県外の人にも利用してくれる。

「この店を通して、黒川の外の人に黒川のことを知ってもらえたらいいと思います」

堀部さんは、ヨナナが黒川と外をつなぐ接点になれば、と願っているのだ。



まず、試してみてもいい？ 今はそういう時代なのだと思う

移住したいという気持ちがあるなら早めに行動に移したほうがいい、と堀部さんは考えている。

「家を買わなくても、賃貸の家やシェアハウスに住んで体験してみる方法もある。ダメなら戻ることだってできる。とにかくやってみたら、きっと世界が広がると思う」

経験者の言葉として、大いに参考になりそうだ。

キャプション

<220112\_47\_034>

国道 477 号線に面したカフェの店舗。店の横に駐車スペースがある

<220112\_47\_041>

明るい雰囲気の店内。元はうどん屋さんだった建物をリフォームした

<220112\_47\_057>

コーヒーは自家焙煎。パッケージもかわいい

<220112\_47\_173><220112\_47\_230><220112\_47\_382>

ヨナナ 店主

堀部美香さん

ご主人、小学生のお子さんと 3 人暮らし。一級建築士の資格を持ち活躍していたが、より楽しめる仕事をと考え、4 年前に箕面市から黒川に移住してカフェを開いた

<220112\_47\_402>

店を出す料理には、自家栽培の野菜も使っている

<220112\_47\_524>

店より小高い場所にある自宅からの景色

<220112\_47\_541><220112\_47\_550>

家の裏山は、菊炭の原料になる台場クヌギの林がある

<220112\_47\_559>

カフェの入り口。ヨナナは国道 477 号にちなんでいる